

水稻の収穫が終わったら早めの秋耕を！

稲の収穫後に秋耕（稲わらのすき込み）を行うと病虫害、雑草の防除や土づくりに効果があります。収穫が終わったら**早めに複数回秋耕を行い**来年の収量・品質を向上させましょう。

・イネ縞葉枯病

ひこばえ（再生稲）とイネ科雑草は、イネ縞葉枯病ウイルスを保毒したヒメトビウンカの生息・越冬場所になりますので、早めにすき込みましょう。

・斑点米カメムシ

ひこばえや一部のイネ科雑草が出穂すると好んで吸汁します。収穫後も栄養を蓄えることで、越冬後の生存率が高まるおそれがありますので、早めにすき込みましょう。

・スクミリンゴガイ

収穫後耕耘することで越冬個体を物理的に破碎するとともに、低温にさらして死滅させます。



図1 スクミリンゴガイの卵

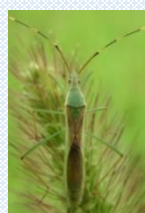


図2 クモヘリカメムシ



図3 イネカメムシ

図1, 2, 3 茨城県病虫害防除所

・クログワイ、オモダカ、ミスガヤツリ等

これらの塊茎は、イネの収穫後なるべく早めに耕起することで塊茎の形成を妨げることができます。また、塊茎を地表面に露出させることで、冬季の低温（-7~-8℃）と乾燥により死滅させることができます。

・雑草イネ

収穫後の遅くとも10月上旬までにロータリ耕による耕起を行い、地表の種子を土中に埋め込みます。耕起が秋の間に種子の発芽を促し、その後の冬季間の低温でこの芽生えを死滅させます。



図4 オモダカ



図5 クログワイ

病虫害対策

雑草対策



土づくり対策
ガス害対策

・稲わら腐熟促進 ・地力向上対策

気温の高い秋のうちにすき込むことで腐熟が進み、地力が向上します。



・ガス害(わき)対策 ・メタンガス排出量削減

秋のうちに稲わらを十分に腐熟することで、移植後の初期生育に影響を及ぼすガス害（わき）の原因となる硫化水素ガスの発生を抑制でき、メタンガスの排出量を削減する効果もあります。

